

# 志産志消の発想

～地産地消を超えて新たな展開を～

三重県地方自治研究センター  
副理事長  
三重大学副学長

児玉克哉



発行所  
三重県地方自治研究センター  
三重県津市栄町2丁目361番地  
(財)三重地方自治労働文化センター内  
TEL059-227-3298  
FAX059-227-3116  
<http://www.mie-jichiken.jp/>  
info@mie-jichiken.jp

## 1 地産地消の 効果と限界

「地産地消」とは、「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味でつかわれ始めたキャッチフレーズです。近年、消費者の農産物に対する安全・安心志向の高まりや生産者の販売の多様化の取り組みが進んでいます。特に海外産の食材や、添加物が相当に使用された加工品に対する不安もあり、生産者と消費者とが直接的に触れ合うことができる形での販売方法としての地産地消への期待が高まってきました。

地産地消とは、地域で生産されたものをその地域で消費することですが、さらに、この活動を通じて、生産者と消費者とを結び付けようという試みもあるのです。地元の人が地元でつくった農産物を、地元の人から消費するという仕組みによって、生産者と消費者との関係はずっと近いものになります。地域愛にも繋がるものであり、日本のほとんどの自治体が推奨しています。

各地でファーマーズマーケットなどの産地直売所ができましたし、また道の駅などでも地産地消のコンセ

プトで、地元の野菜や果物、魚介類が販売されるようになりました。最近、大手スーパーも賛同しはじめ、地物を取り扱う積極的なキャンペーンが見られます。また学校給食でも地元産のものを極力使う学校も増えています。

いいことづくめのような地産地消ですが、いくつもの限界も見えてきました。まず、一種の保護貿易的な発想もありますから、すべての地域が地産地消を推進すると、販売スケールは小さくなります。特に日本の場合には、生産地域と消費地域がかなり分かれていきます。例えば、尾鷲でできたもの、とれたものを尾鷲だけに販売していたのでは、小さな経済活動しかできず、自立した農業、漁業は確立できません。また、「ブランド」戦略にも必ずしもいい効果をもたらしません。「ブランド」として立ち上げるには、広範囲の人がその産品の名前と価値を認めることが必要です。地元への戦略だけでなく、より広範囲の地域への戦略が大切なのです。地元でとれたものが必ずしも質がいいとは限らないということも見逃せないポイントです。地元でとれたものを優先することによって、自由な競争が阻害されます。その結果、より良いものをつくらうとする意欲が育ちにくくなるのです。



大紀町で漁れた魚を売る様子（津市にて）

## 2 「地」だけでなく、 「志」の大切さ

私は、生産者が産品に注ぎ込む「志（こころざし）」に注目しました。「国産」の産品は高く評価されることが一般的になっていますが、これは、日本でとれたからということだけが、重要なわけではありません。日本の国産品は、品質が高

政策として持ちますが、実際には経済的に大きな効果が認められたとはいえない状態です。素晴らしい面を持つていますが、同時に保護主義的な面をも持ち合わせており、その後の建設的な展開が妨げられているのです。

く、安全だ、ということだから、高く評価されるのです。つまり日本の農家が注ぎ込んでいる「志」が重要なポイントになっていきます。もちろん、国産品においても、「志」の高いもの、低いものとバラツキがあります。「志」を高く持ち、しっかりとした品質の製品を作る生産者を応援することが必要なのです。

有機農法を例にとりましょう。この方法と発想に魅せられて有機農法に取り組む農家は少なくはありません。しかし、非常にたいへんな作業を伴い、大量生産が阻まれます。だからといって今の社会では、それほど高い価格設定をすることができず、結局、有機農法をしても経済的には報われない農家が多いのです。生産者が「志」を高く持つて製品を作り、それを消費者がその「志」を評価し、「志」を持つて購入する社会運動が重要だと考えています。農業も漁業も、林業も様々な形で社会性を持っています。より安全で、品質の高いものを供給することも社会性ですし、そうした産業で日本の過疎地域の再生を図ることも一つの社会性です。自然と共生をはかる農業、漁業、林業は、環境保護という社会性も持っています。人の命や自然の大切さ、地域社会や地域文化の意味を守るうとする「志」ある生産者を増やすことと、それを支援する「志」ある消費者を増やすことが、これからの日本の社会を考えるときに極めて重要だと思います。すべてが価格競争の流れのなかに組み込ま

れ、「志」よりも「金」が重要視される社会は必ず行き詰まるはずですが。高い志をかかげ、品質の高い製品が作れるなら、そしてそれを支援する消費者の運動があるなら、いいものを「ブランド化」し、地域の枠を超えて、日本全国に流通させることができます。もつといえ、世界中に流通させることも可能になるのです。

### 3 志産志消の展開

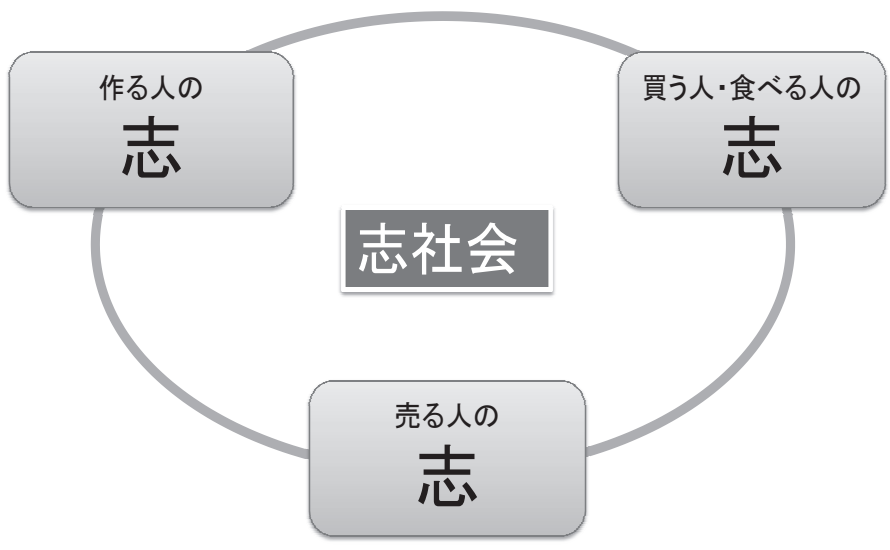
具体的に志産志消運動の展開を考えてみましょう。まず重要なことは、生産者がみずからの「志」を明確にして、それを産品に注ぎ込むとともに、消費者に伝えていくことが大切です。「安全な食品をつくることを目指してこうした作り方をとっていますよ」「自然、環境を守るためにこういうやりかたをしていますよ」「伝統文化を守るために、こうした活動をしていますよ」など、生産活動の「志」を明確化することは、自分たちの生産活動の意味を模索する上でも重要ですし、産品のブランド化を図る上でも大切です。各地で様々な「志」産品が生まれることになりま

す。こうした「志」をできるだけ分かりやすく、消費者にアピールする仕組みをつくりま

す。世界的な運動としてフェアトレードという運動があります。これは発展途上国の生産者が、自然に優しく、安全で高品質なものを作り、その生産者が生活を守れるようにするために、先進国の消費者がやや高めに設定されたフェアトレード品を購入していく運動です。いわば、発展途上国の生産者の「志」を先進国の消費者が評価し、購入していくというものです。国際的なレベルでの志産志消といえるでしょう。

志産志消運動は、発展途上国―先進国といった関係のみならず、より普遍性を持って、農業、漁業、林業、文化産業などのレベルをあげて、社会を改善しようというものです。地産地消の運動をさらに発展させ、「顔のみえる」関係から「志のみえる」関係を目指します。三重県の多くの地域で、多くの人が「志」と「誇り」をもって、さまざまなものを作り出していく。そし

## 志産志消のネットワーク



てその「志」と「誇り」を評価し、産品を買っていく消費者との連携の創造が三重県のみならず日本の新たな社会を生み出すのではないでしょう

# 歩くまちづくり講座始まる

## 第一回「関宿を歩く」10月17日に開催

10月17日(月)、当センター主催の「歩くまちづくり講座」第一弾となる『関宿を歩く』が開催されました。本年二月の「三重まちづくりフォーラム」を発展させ、現地を訪ねて歩き、町並み保存の取り組みを学びました。

参加者は県市町の自治体職員、当センター各種会員など15名とコーディネーターや事務局3名に、現地ガイドとして関宿町並み保存会元会長の服部泰彦氏と行政側から亀山市まちなみ文化財室長の嶋村明彦氏が加わりました。

当日、参加者は関宿旅籠の玉屋(歴史資料館)に集合し、コーディネーターの竹峰誠一郎・三重大学地域戦略センター研究員(当センター特別研究員)の進行で、まず東西追分の一・八キロメートルの歴史的分の町並み(約二百軒)を90分ほど自由散策し、保存・修復の現状を観て、住民へのインタビューなどを行いました。



玉屋(歴史資料館)

再び、玉屋へ戻った参加者は車座になり、銘菓「関の戸」を戴きながら質問

や意見、感想を出し合い、服部さんや嶋村さんから今までの経緯やご苦労や悩みに耳を傾けました。

特に、町並み保存の当初からの大きな争点であった「観光」か「生活」かについて、住民の生活が第一とする圧倒的な意見で「保存」活動が進められてきたことなどが説明されました。さらに、町並み保存に取り組む中で、地域の歴史を発見しあい、外からも注目され、何もないと考えていた関宿に自慢と誇りが持てるようになり、まちがきれいになっていったと話されました。また、高齢化や空き家対策の課題が出されましたが、新たに住みたいと申し出る若い人達がいることも語られました。

最後に竹峰研究員から、まちの活性化として、まちを新しくする方向ではなく、あえて時計の針を戻し、歴史を取り戻す方向性を打ち出した発想の転換が、関宿のまちづくりにはあるなどのまとめがありました。住民団体である保存会が学習会などを通じ、歴史をまちに取り戻す意義を地道に住民と共有化し、文化財保護の専門的資格を持った自治体職員が、もう一つの輪になり進められてきました。住民と行政の顔であるお二人に同席いただき実りある講座となりました。

三重県地方自治研究センター主催

参加者募集!

# 「歩くまちづくり講座」

## ～鳥羽(菅島)エコツーリズム編～

三重県内には全国的に注目されるまちづくりの実践がたくさんあります。昨年は、当センターで、「三重まちづくりフォーラム」と題し、県内で活躍中のキーマンにお話をお聞きしました。今年は、県内のまちづくりの現場を歩き、携わっている方々と交流し、刺激を受け、共に悩みながらも、これからのまちづくりを模索する講座(全三回)を開催しています。上記の第一回「関宿を歩く」に続いて、第二回目は、鳥羽市の「エコツーリズムからまちづくりへ」の展開について下記のとおり開催します。

是非、この機会にまちづくりに関心をお持ちの方の参加をお待ちしております。

### 鳥羽市 エコツーリズムからまちづくりへ

「海島遊民くらぶ」が地元の小学校と連携し取り組んでいるエコツーリズム(菅島に渡り地元小学生が島っ子ガイドになって、島の魅力を案内してくれるツアー)を体験します。海との関わりを見つめ直し始めたエコツーリズムは、まちづくりへの視野をもって展開しています。その取り組みと志を聞きます。

2011年11月25日(金) 9:00~17:00

9:00 集合 鳥羽マリンターミナル(鳥羽駅徒歩5分) → 17:00 解散

現地ガイド 鳥羽市エコツーリズム推進協議会  
会長 江崎 貴久氏 ほか

### 参加募集要項

- 対象者 県・市・町職員(各3名まで)、個人会員、各種団体会員  
\*まちづくりに関心のある方
- 開催場所 現地集合、現地解散  
\*雨天決行
- 募集人数 先着20人
- 申込締切日 2011年11月4日(金)  
詳細は当センターまでお問い合わせ下さい。  
\*三重県地方自治研究センターの研究員がコーディネートします。

研究員の  
本棚

## 『節電の達人』

村井 哲之 著／朝日新書

今夏、浜岡原発運転停止の影響で東海地方でもピーク時の電力不足が懸念されましたが、家庭や企業での積極的な節電の取り組みを始め、自治体においても庁舎の間引き消灯・空調の設定温度の変更・ノー残業デーの徹底など様々な努力の結果、何事もなく乗り切ることができました。しかしながら年間の電力量の推移を見ると、夏だけでなく冬にもピークが存在することがわかります。いずれの時期もエアコンなど空調機器の使用が大きく影響しています。

夏に比べて冬は、エアコンの代わりに石油ストーブ等を使用することで比較的容易に電気の使用を減らすことが可能です。極端なケースでは重ね着をして寒さを耐えることもできま

す。しかし先日の中部電力の発表で、夏場に引き続き冬場も企業や家庭に節電協力を要請することを示したことから、今のうちから最悪のケースを想定して節電対策を考慮しておく必要があります。

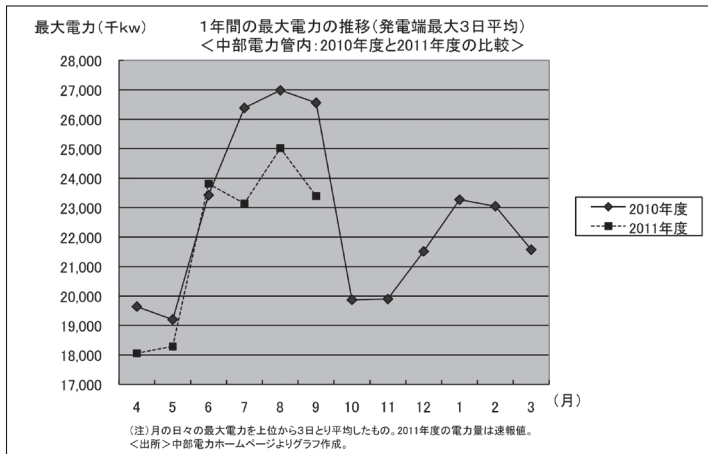
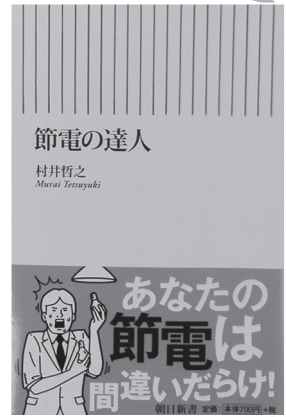
一日の使用電力の動きは、夏場は昼過ぎに電力量の使用のピーク

がありますが、冬場は起床時と夕食時にピークがあります。冬場の対策の一例として、出勤時間や退勤時間をずらして運用すること、つまり職場が積極的にフレックスタイムを活用することで夏場以上の節電効果が期待できるのではないのでしょうか。

本書では、今まで節電効果があるとされてきた様々な取り組みについて誤った認識があること、その状況を踏まえて家庭や職場における効果的な節電方法を具体的に紹介しています。また日々の使用状況に応じた料金プランを選択することで、大きな節約効果が期待できるケースも家庭と職場の両視点から紹介していますので必見です。

「節電の達人」を目指すことで「節約の達人」になり、結果的に地球にも財布にも優しいエコな社会が実現できるのです。

(主任研究員 小林久晃)



## DVD 「新しい地方自治への挑戦」好評発売中!

地方自治をテーマにした DVD「新しい地方自治への挑戦」を制作しました。「地方主権」が唱えられているなか、これからの地方自治をどう拓いていくのか。厳しい現実のなかでも、「つながり」をキーワードに挑戦している地域の実践や地方自治を語る片山善博前総務大臣へのインタビューを紹介。自治体職員の熱意、地域住民の思いが、響きあい作り出す多彩な「まちづくり」に驚くはず。この DVD が新しい地域づくりのヒントに…地域主権や地方自治の今後を模索する資料や研修会等の教材として活用いただければ幸いです。

- 一部 夕張は今(北海道夕張市)  
～自治体「倒産」、夕張は、どう立ち向かっているのか
- 二部 つながりが育む住民自治
  - 「官」か「民」かの二者択一を超えて(福井県越前市)  
～市民立・労働者立の道で児童養護施設を設立
  - 循環を鍵にしたエコツーリズム(三重県鳥羽市)  
～先人たちが残した自然や歴史、文化の全てが魅力
  - 国の壁を超える高校生フォーラム(神奈川県川崎市)  
～出会えれば友だち日本・韓国・在日コリアン交流会
- 三部 これからの地方自治を拓く(片山善博前総務大臣)  
～住民自治の拡大が鍵
- 四部 解説 (児玉克哉三重大学副学長、当センター副理事長)

購入申込先：  
三重県地方自治研究センター  
〒514-0004  
三重県津市栄町2丁目361番地  
TEL:059-227-3298  
FAX:059-227-3116  
定価：5,000円(約60分)  
送料：350円

